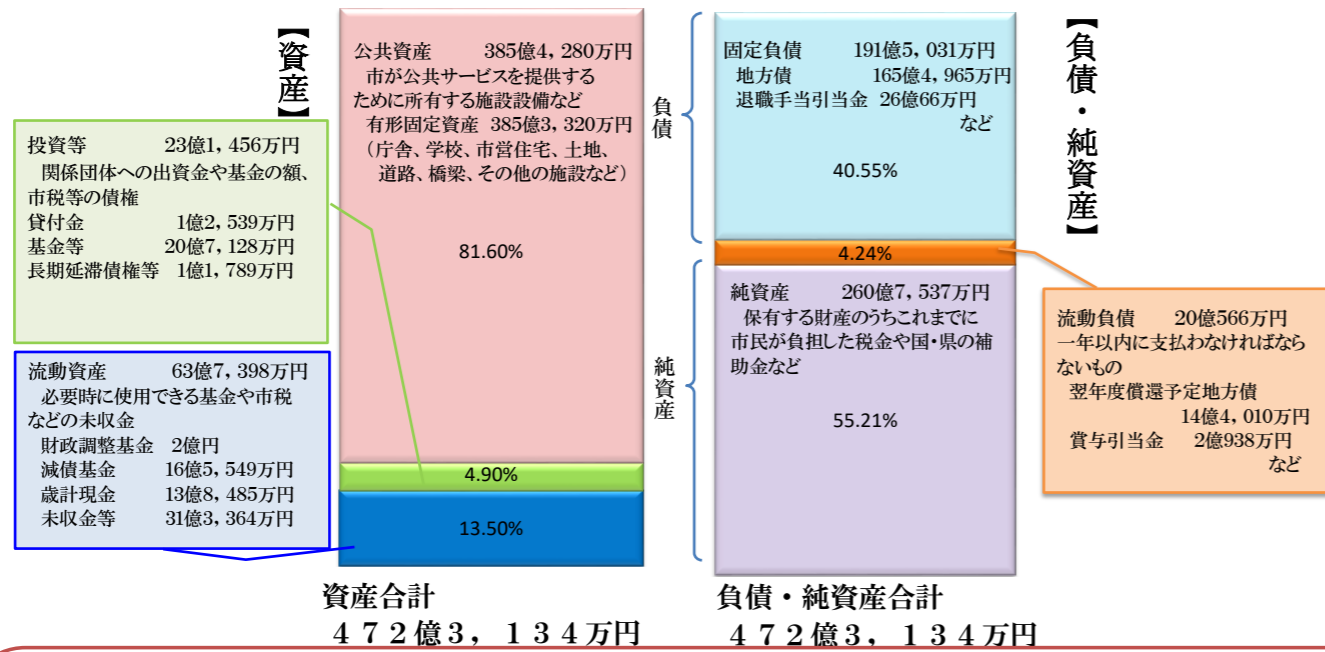


人吉市財務諸表について

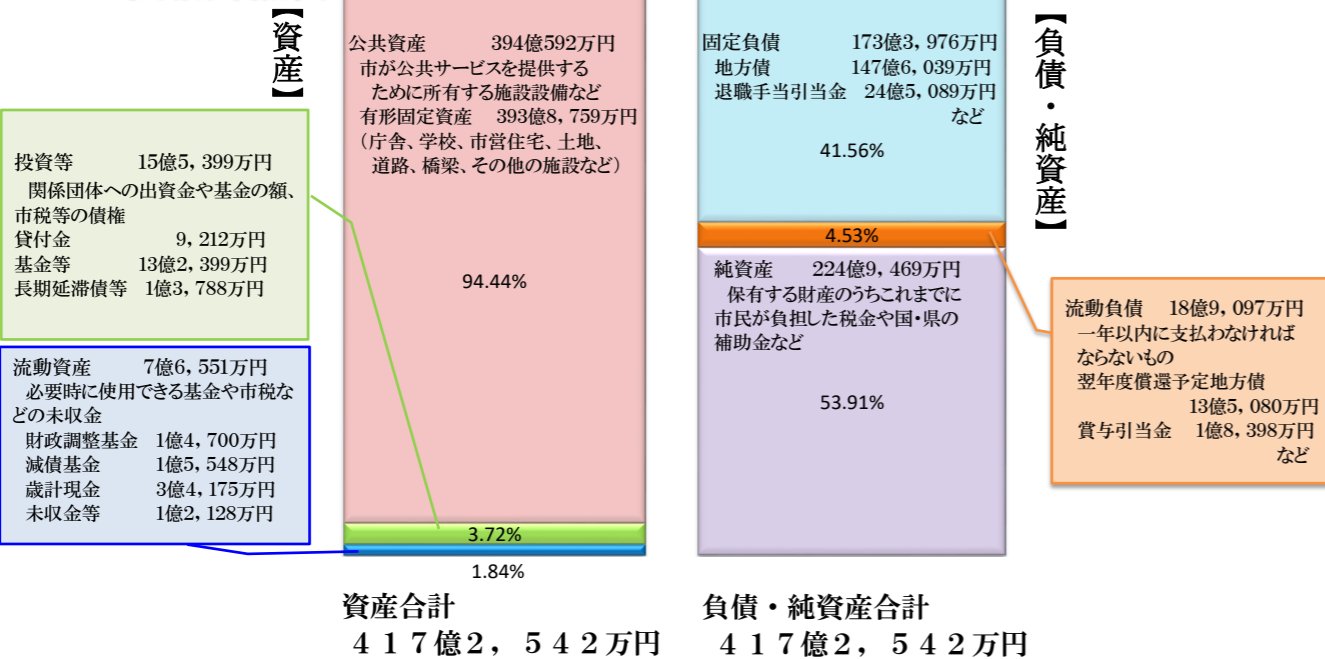
令和2年度普通会計 貸借対照表

貸借対照表とは…
市がどのような財産を持ち、その財産を所有するためにかけた費用を表したものです。そのため、「資産」＝「負債」＋「純資産」という関係式が成り立ちます。



上記の貸借対照表から見えることは、資産では庁舎や学校などの公共資産が80%以上を占め、負債・純資産では純資産が5割以上を占めています。このことから、将来世代への負担（率）は、低い傾向にあることがうかがえます。流動資産は、前年度と比べ、全体で約56億円の増となり、令和2年7月豪雨が大きく影響しています。国からの支援である特別交付税の増額を将来の起債償還に備え減債基金への積み立てを行い、災害復旧事業において令和3年度へ繰り越したことから国庫補助金等が未収金となり、流動資産全体が大きく増加となりました。一方で財政調整基金は前年度より約6千万円の増にとどまり、厳しい財政状況であることは依然として変わりません。負債でも令和2年7月豪雨に伴う各施設の災害復旧事業や災害廃棄物処理事業等による起債の借入れを行い、固定負債において地方債が約17億9千万円の増となり、固定負債全体でも約18億1千万円の増となっています。人吉市では、上記の表にあるように有形固定資産が全体の80%以上を占め、公共施設の老朽化による改修や維持については大きな費用が必要となり今後の課題でもあります。また扶助費など経常的な経費の増に加え、令和2年7月豪雨からの復旧・復興が急務となっており、特に復興事業においては市単独での多額の財政負担が懸念されます。公共施設の改修等はその施設の純廃合も含めた今後の活用を十分に検討し、財源である地方債も交付税措置のある地方債に限定するなど活用には慎重に行う必要があるとともに、令和2年7月豪雨からの復興を止めることのないよう財源をねん出するため、令和元年度に策定した「人吉市行財政健全化計画」を推進し、経常的な経費の抑制のため、事業の縮小や効率化に向けた取り組みを行ってまいります。

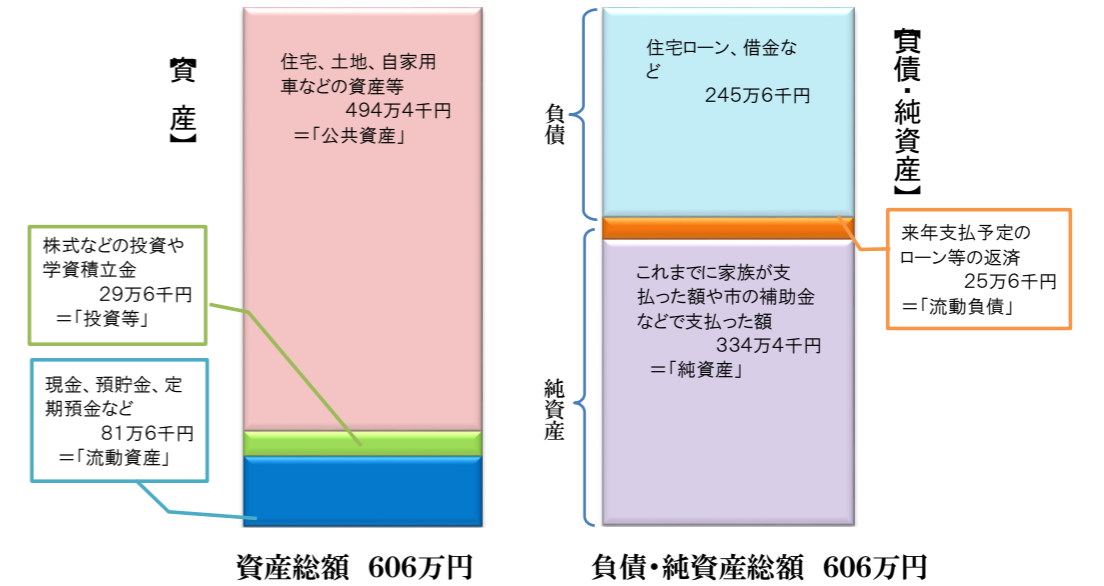
令和元年度普通会計 貸借対照表



*人吉市の貸借対照表を1世帯（4人家族）に換算すると…

1世帯（4人家族）の 貸借対照表

令和3年3月31日時点の住民基本台帳人口(31,176人)で1人当たりに換算した額をもとに算出しました。



令和2年度は前年度と比較すると総額で82万円の増となっており、保有する資産はほぼ同額となっていますが、現金や預貯金が72万円増加したことで全体的な規模が大きくなっています。なお、理由としては、左記の表の流動資産が増加したことに加え人口減少により一人あたりの資産が増えたことが挙げられます。一方でローン返済等の負債が増加していますので、将来に向けて不安が残ります。新たな資産の購入等へ回せる余裕がなく、少しでも現金預金を増やすよう、節約が必要な状況です。また、資金調達のために借金をするとしても来年度の支払いなども含めて将来を見据えた計画が必要といえます。

1世帯（4人家族）の 貸借対照表

令和2年3月31日時点人口
31,867人

